吉野社長に訊く！ 未経験者・普免のみ保有者・女性・若年者の採用主眼に「ステップアップしていくキャリアモデル」を実現！

吉野　晋司
代表取締役

当社のドライバーは、最年少が24歳の山崎で、最年長が59歳です。60歳を定年とし、定年後は延長再雇用制度を設けており、63歳までの雇用実績があります。採用方法としては、いまだに根強いのが従業員からの紹介、次いで多いのが求人サイトからの応募です。求人条件には、「普通免許のみでOK」と掲げ、未経験者・若年者を積極的に採用しており、当社のドライバーは7割が未経験者です。普免のみ保有の未経験者には、入社後、免許取得補助制度を利用し、まず中型免許、次に大型免許とステップアップしてもらっています。昨年は3～4回求人を出し、計60件強の応募がありました。これは比較的多い数であると捉えています。

今年でちょうど創業10年を迎えますが、4年目に初めて女性ドライバーを雇用して以降、入れ替わりはあるものの、常時女性ドライバーが在籍しており、大手運送事業者の営業所間輸送を担当してもらっています。会社が身体的負担の少ない運行を創出しさえすれば、何事にも気が利き、仕事も手早くこなす女性ドライバーが、この業界で活躍できる場は十分にあると考えます。山崎には、今年中に大型免許を取得してさらにステップアップしてもらい、30歳になる頃には管理者のポジションに就いていてほしいと期待しています。

株式会社ヨシノロジ

［代表取締役　吉野　晋司］

本社所在地	佐賀県鳥栖市立石町865-1
資本金	500万円
設　立	平成26年9月19日
従業員数	35人（ドライバー30人、うち女性1人）
車両数	28台

interview! コロナ禍で絶たれた進路 佐賀へ移住し叶えた「新たな夢」

◆トラックドライバーを目指したきっかけはなんですか。

「トラックドライバーという仕事には魅力しかない」と語る山崎さん

兵庫県丹波市で生まれ育ち、幼稚園から高校3年生までサッカーに打ち込むなど、もともと体を動かすことが好きでした。県内の大学へ進学し、空港で国際線のグランドスタッフになることを将来の目標にしていましたが、大学在学・就職活動期間がコロナ禍真っ只中の時期と重なり、海外渡航も制限されていたので、「今の時期にこの業界で働くべきではないな」と思って夢を諦め、自分が進むべき方向が分からなくなり、落ち込んでいました。そんな中、気分転換にしていたのが趣味のドライブで、その際に1台のトレーラーを目撃したことが、今の仕事を志したきっかけです。

自分は乗用車を運転し、交差点に停車中で、1台のトレーラーが交差点を曲がっていくという状況でした。「こんなに狭いところを、あんなに長い車が曲がっていけるの?」と思って見ていると、トレーラーのドライバーさんは何食わぬ顔で、いとも簡単に曲がって行ったのを見て、「自分にはこんなにすごい運転、絶対にできないな」、「あんなに難しい、高度な運転技術を、簡単にやってのけるトラックドライバーって、なんてかっこいいんだろう」と感動を覚えました。

そのトレーラーのドライバーは男性でしたが、それ以降、トラックドライバーの姿を気にするようになりました。自分の中で、トラックドライバーといえば男性ばかりで、女性のドライバーがいるとは思っていませんでした。しかし、街中には意外と女性トラックドライバーがいることに気づき、「かっこいいな。私はドライブが好きだし、もしかしたらトラックドライバーに向いているかもしれない」と思いはじめ、ついには「本当にトラックドライバーになってみよう」と一念発起。普通免許しか持っていなかったので、「とりあえず中型免許を取りに行こう」と思い立って教習所に通い、大学を卒業した年（令和5年）の5月末に、中型免許を取得しました。

◆応募から採用に至るまでの経緯をお聞かせください。

中型免許を無事に取得し、すぐ就職活動をはじめました。就職するなら、地元の兵庫ではなく、佐賀がいいと思い、求人サイトで佐賀のトラックドライバーの求人を検索しました。実は、佐賀に親戚が住んでいて、幼いころから何度か足を運ぶなど馴染みがあり、福岡へ旅行に行った際も非常に好印象で、「一度は佐賀や福岡に住んでみたい」と思っていたからです。

しかし、動き出してはみたものの、トラックドライバーはトラックを運転するだけの仕事だと勘違いしていて、荷物を扱うことにまで考えが及んでいなかった私が、求人ページの仕事内容を見ても、具体的な業務のイメージが湧かなかったり、「カゴ台車」（ロールボックスパレット）などの専門用語が分からなかったりと、「トラックドライバーを仕事にしたい」という希望とは裏腹に、不安も大きかったのは事実です。そんな中で、分からないなりに仕事内容や給与面などを調べ、未経験者を受け入れてくれそうな佐賀の運送会社を3社選んで応募し、兵庫から面接に行きました。

2社目に訪れたのがヨシノロジでした。ヨシノロジは、会社のホームページもきれいにデザインされていて、「広報面にも力を入れているんだな」と応募前から好印象でしたし、事務所スタッフの方々も気持ちよくあいさつをしてくれて、緊張がほぐれました。そして吉野社長と面接をさせてもらうと、トラック運送業界のことや、トラックドライバーの仕事内容について、一から十まで熱心に説明してくださり、未経験者の私が抱いていた不安や疑問をすべて解消してくれました。そして、3社すべての面接を終えた後、「ヨシノロジさんで働かせてください」と連絡し、採用に至りました。

それが昨年6月上旬のことで、佐賀に転居し、晴れて入社したのは翌7月でした。両親も地元の友人たちも、「自分がやりたい仕事を、やりたい場所で、好きなようにやったらいいよ」と、とても好意的に送り出してくれました。特に両親は、佐賀に親戚がいることも大きな安心材料だったと思います。

◆苦労したことややりがいを感じたこと、また今後の目標について教えてください。

中型免許取得のために教習所へ通った時、いちばん苦労したのが車体の大きさでした。教習には平ボディ車を使用していて、それでも四苦八苦したのですが、入社後の初任ドライバー研修で初めてバン型車に乗った時は、「こんなに死角が多い大きな車を、皆どうやって運転しているんだろう?」と非常に戸惑い、特に死角の多さは恐怖でした。マニュアル車の操作や車両の幅・長さ・高さ、バックの感覚の違いや内輪差などに苦戦し、研修の時間だけでなく、早めに出社したり、退勤後居残ったりして、自主練習を重ねました。指導にあたってくれた先輩方は、私が何度同じミスをしても、やさしく、根気強くアドバイスをくださり、「やさしく指導してくださるからこそ、もっと頑張らなくてはいけない」と思って練習に励みました。1か月経たずにひとり立ちすることができたのは、ひとえに先輩方のやさしいご指導のおかげです。ひとり立ちして以降も、あの「死角の恐怖」を忘れず、念入りにミラーや目視で確認し、十分に車間距離をとることを心がけています。

トラックドライバーという仕事の魅力は、仲間に支えられながらも、基本的に自分のペースで仕事ができることだと思います。また、自分の原動力になっているのは、職場や積み降ろし先での、「ありがとう」、「おつかれさま」、「気を付けてね」といった、何気ないあいさつや声かけです。日々の仕事の中で、こうした声かけをしてもらえることが本当にうれしく、大きな励みになっています。

地場での運行は自分の性に合っていると感じていますが、当社には4トン車での鹿児島へのスポット運行があるので、一度はその長距離運行を担当してみたいと思っています。今後の目標は、大型免許やフォークリフトの免許を取得し、様々な場面で活躍できるドライバーになることです。

写真左から、山崎さん、吉野社長

女性の輝く現場から トラガールのお仕事。

第40回「中型車ドライバー（地場での雑貨輸送）」山崎　安里紗さん（㈱ヨシノロジ・佐賀県）

トラック運送業界で様々な仕事に携わる女性をとりあげるこのコーナー。第40回目は、「中型車ドライバー（地場での雑貨輸送）」のお仕事です。㈱ヨシノロジ（佐賀県）の山崎安里紗さんが登場します。

トラガールファイル

山崎（やまさき） 安里紗（ありさ）さん

真摯な姿勢と努力で職場・現場の厚い信頼を得る 異色の「大学新卒・未経験者・移住就職」トラガール！

- 兵庫県丹波市出身。幼稚園から高校3年生までサッカーに打ち込み、兵庫県内の4年制大学を卒業。卒業した年の5月末に中型免許を取得し、6月に面接を受けて採用され、7月に佐賀へ移住して㈱ヨシノロジに入社。
- 入社以来、テールゲートリフター付きの4トンウイング車で、宅配便や冷蔵便等を扱う輸送を行っている。シフトによって勤務時間が異なり、取材当日は最長ルートの全日運行を担当。
- 休日の楽しみは、趣味のドライブ。「佐賀平野は夕焼けがきれいで、運転していて楽しいです。兵庫の実家にも7時間半かけてマイカーで帰省します。行ってみたい九州のドライブスポットは湯布院です」（山崎さん）。

✤担当業務：4トン車による雑貨輸送（地場）
✤勤続年数：11か月
✤取得資格：中型自動車免許

山崎さんのある1日の仕事の流れ

山崎さんは日々、どのような「トラガールのお仕事。」に携わっているのでしょうか。お仕事に1日密着させていただきました。

9:30
出社。洗車（写真①）、車両点検（写真②）、アルコールチェック等の業務前点呼を行う。

①

②

10:15
会社を出発（写真③）。

③

11:30
福岡県糟屋郡篠栗町にある大手運送事業者の物流拠点に到着。①福岡市博多区、②福岡市東区――の営業所2か所分の荷物を、カゴ台車で積み込む。カゴ台車と荷物の二次元コードを専用端末で読み取り、担当者にカゴ台車の本数を報告。紙製の封印をトラックの観音扉のバー部分に取り付ける。完了後、1か所目の営業所へ向け出発（写真④）。

④

12:30
福岡市博多区の営業所に到着。同営業所のスタッフが荷降ろしを行い、完了後2か所目の営業所へ向け出発。

12:50
福岡市東区の営業所に到着。ここでの荷降ろしも営業所のスタッフが担当。完了後、篠栗町の物流拠点に戻るべく出発。

13:30
行きつけの弁当店に立ち寄った後、篠栗町の物流拠点に到着（写真⑤）。同所の駐車スペースで昼食休憩をとる。「積み込みが開始になる15:30まで、2時間ほど休憩をとります。お気に入りの『メガ盛り唐揚げ弁当』を食べることが多いです（笑）。おいしい唐揚げがパワーの源になっています」（山崎さん）。

⑤

15:30
積み込み開始（写真⑥）。福岡県那珂川市の営業所へ運ぶ荷物を、午前の積み込みと同じ要領で積み込んでいく。完了後、同営業所へ向け出発。

⑥

17:00
那珂川市の営業所に到着。営業所のスタッフに荷降ろしをしてもらった後、次の積み込みを行う福岡市南区の営業所へ向け出発。「次の積み込みまでは時間があるので、近隣のコンビニエンスストアに立ち寄って買い物をすることも。4トン車が駐車できるスペースがあるのでありがたいです」（同）。

18:45
福岡市南区の営業所で、篠栗町の物流拠点へ運ぶ荷物を積み込む。完了後、篠栗町へ向け出発。「積み降ろしはどこの営業所でも10分ほどで完了します。私の車両にはテールゲートリフター（写真⑦）が装備されているので助かっています」（同）。

⑦

19:40
篠栗町の物流拠点に到着。バースにトラックをつけ、同所のスタッフと協力しながらカゴ台車を降ろす。完了後、会社へ戻る。

21:00
帰社。業務後点呼でアルコールチェック（写真⑧）や運行状況の報告を行い、日報を提出する（写真⑨）。

⑧

⑨

21:15
退社。

山崎さんはこんな人！

山崎さんは「年下の先輩」にあたります。仕事熱心で、新人ドライバーのお手本になるような努力家です。

（門川侑生〔かどがわ・ゆうき〕さん、写真右）

誰に対しても物怖じしない、高いコミュニケーションスキルの持ち主です。人としての芯が強く、どの現場に行っても馴染みやすい性格は、非常にドライバー向きといえます。

（井手智弘〔いで・ともひろ〕さん、写真左）